



小児在宅ケア研究会会報 第12号

平成29年8月23日

【第13回小児在宅ケア研究会 年次集会のご報告】

平成29年7月1日(土)に、第13回小児在宅ケア研究会年次集会が、「子どもと家族を中心につながる医療・福祉・教育」をテーマに、名古屋大学大幸キャンパスにて開催されました。今年度も164名の方に参加して頂き、2件の活動報告、1件の事例報告、1件の研究報告、そして講演が行われ、様々な意見交換が行われました。

活動報告では、第12期の小児在宅ケアコーディネーター研修会修了生の方が、研修会で事例報告をされた事例のその後の経過を含めた発表をされました。医療的ケアを必要とするお子さまやそのご家族が成長発達していく中では、新たな困難に会う事も多くあること、その困難を乗り越えるためには、様々な専門職が連携してお子さまやご家族を支えていくことが必要であることを改めて感じました。また2例目の活動報告は、歯科医の方が特別支援学校との連携活動に関する内容を発表されました。小児在宅ケア研究会の年次集会で看護職以外の方が発表されるのは初めてでしたが、それぞれの専門職の立場から、医療的ケアを必要としているお子さまやご家族を支えているという事を実感したとともに、歯科医の方との連携という新たな示唆を得ることができた発表でした。



事例報告は、訪問看護ステーションの看護師の方が、実際に訪問をした際のお子さまやご家族の様子から、どのように家族の気持ちや選択を尊重した援助をしたらよいかと悩まれた事例を発表されました。在宅ケアを行っているお子さまやご家族の言動に戸惑いを感じたとき、その言動にとらわれてしまうと、お子さまやご家族との相互作用は生まれにくいため、その言動をされる理由にまで関心をもち、丁寧に関わる事の重要性を感じました。在宅ケアを始めるまでの経過の中で、お子さまやご家族は様々な体験をし、その都度いろいろな思いを感じてこられて現在があるという事を理解したうえで関わる事が必要であり、それと同時に、お子さまやご家族の体験や思いを、施設内で働いている専門職、そして地域で働いている専門職が共有しながら、お子さまやご家族を支えていくことの大切さを感じました。

研究報告は、突然の病気で生命が危機的状況となり、その後医療的ケアを必要としながら、在宅ケアを行っているお子さまのご家族を対象とした研究発表でした。このような経験をしたご家族は、状況がわからないといった混乱した気持ちや、難しい選択を迫られるといった体験をしながらも、親であるという事を実感しつつ、子どもと一緒に生活したいと思うという体験をされているといった結果が報告されました。子どもが急に生命の危機状態となり混乱した状況の中でも、ご家族が親であることが感じられるような関わりを心がけていく事も大切ではないかと感じました。

最後の講演は、「教育を通して地域とつながる～特別支援学校における医療的ケアの現状と課題について～」というテーマで、東京都立小平特別支援学校武蔵分教室主幹教諭、元東京都立光明特別支援学校校長である、田添敦孝先生のご講演をお聞きました。田添先生からは、特別支援教育の歴史、そして医療的ケアを必要とするお子さまの現状や、特別支援学校での現状などが、具体的に説明されました。医療的ケアを必要とするお子さまが、社会の中でその子どもらしく生活していくためには、医療・福祉・教育の専門職の連携が必要であることが実感できるとともに、そのお子さまたちが置かれている環境はまだ十分に整えられているとはいえず、そのために国に訴えていくことも積極的におこなわなければならないと感じました。

また、今回参加していただいた方のうち127名の方がアンケートにもご協力くださいました。参加者は、名古屋市を中心とした愛知県の方の参加が多く、所属部署は7割の方が病棟看護師の方でした。また、所属施設は小児専門病院の方と一般病院の方が、どちらとも3割ぐらいの参加で、訪問看護ス

テーションの方が1割程度参加されていました。経験年数は様々で、ほぼどの年代も同じような人数の方が参加されていました。全体の感想に対しては、多くの方が「満足した」又は「少し満足した」と回答されていました。在宅での看護師の実際の活動だけでなく、療育センターや学校での現状などについて具体的な話を聞くことができ、特に学校での取り組みを知ることができたことは、今後小児の在宅ケアを進めていく中でとても役に立つ内容であったとの感想が多くみられました。

アンケートの中では、今後の研究会活動への要望等も様々いただいておりますので、頂きました貴重なご意見を今後の活動に反映させていきたいと思っております。アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。アンケートの詳細は、資料として同封させて頂きますのでご覧ください。

第13回小児在宅ケア研究会年次集会は、多くの皆様のご協力のもと無事に終了する事ができました。ありがとうございました。また来年の年次集会で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

【日本小児看護学会第28回学術集会のお知らせ】

日本小児看護学会第28回学術集会が、2018年7月21日(土)・22日(日)に開催されます。学術集会長は、本研究会の会長でもある、名古屋大学大学院の奈良間先生です。

学術集会は、「子ども、家族とともにある看護」というテーマで開催され、絵本作家である宮西達也先生と、武道家・倫理学者・思想家である内田樹先生の特別講演、そしてみんなで作るシンポジウムと題し、「子ども、家族とともにある医療」というテーマで、参加者全員で作るシンポジウムの企画が進んでおります。チラシが出来上がりましたので、ご紹介致します。この絵は、宮西先生の著書である「おまえ うまそうだな」の最終ページを使用しております。下の方にあるしっぽはアンキロサウルスの子ども(うまそう)を両親にかえし去っていく、ティラノサウルスのしっぽですが、とても愛のあふれた絵です。この絵に描かれているような、子ども家族とともにある看護について、来年の暑い名古屋で皆様と一緒に話してきたらと思っております。まだ来年の事ではありますが、皆様のご参加をお待ちしております。



【第13回小児在宅ケア研究会総会のご報告】

第13回小児在宅ケア研究会総会が、年次集会と同日の7月1日に開催されました。議事の中では、現在の会員数(145名)報告、平成28年度の活動報告が行われました。その後、平成28年度の決算・会計監査(案)、平成29年度の活動計画(案)、平成29年度の予算(案)に関する審議が行われ、全ての事項について承認が得られました。詳しくは、同封させて頂きました総会資料をご覧ください。

【あとがき】

今年の夏は地域によって気候が異なり、異常気象といった言葉をよく耳にする夏でしたが、皆様どのようにお過ごしになりましたか(京都は例年同様に非常に暑い夏でした)。今回の会報では、来年2018年度に名古屋で開催予定の第28回学術集会のお知らせをいたしました。小児在宅ケア研究会の運営委員も企画に携わっておりますので、皆様にも是非ご参加頂き、名古屋で一緒に楽しい時間を過ごしたいと思っております。

会報では、会員の皆様に活用して頂ける情報も発信できたらと思っております。会報内容に関してご希望等がありましたら遠慮なく研究会事務局までご連絡下さい。会員の皆様のご意見を取り入れ、少しでも皆様のお役に立つことができるような活動をしていきたいと思っておりますので、どうぞご協力よろしくお願いたします。

*会員の方で連絡先等に変更がある場合は、お早めに研究会事務局までお知らせください。ホームページからも手続きをすることができます。(文責:堀妙子)